

1 チーム名 (研究対象領域・教科) 高等部国語G チーム・にほんご	
2 メンバー	高等部教員 3名
3 チームのテーマ 社会生活の中で生かせる「国語力」を育てる授業作り	
4 対象児童生徒に願う主体的な姿 ・言語コミュニケーションを使って自分の考えや気持ちを他者に伝えようとする姿。 ・必要な情報を適切に取捨選択し、活用できる姿。	
5 研究仮説 (2 学年 A) ① 昨年度は、国語 2 班に所属していた。 ・50音図のプリントについては理解できているものの、カタカナの「シ・ツ」の区別が曖昧であったり、長音・拗音については理解できていなかった面も見受けられた。また、助詞の理解については、選択肢を用いれば正しい助詞をある程度は選ぶことはできるものの、空欄補充の形式にすると途端にミスが増える様子も見受けられた。しかし選択制の二語文、三語文の作成課題においては、スムーズに作文することができていた。漢字や読みの能力は小学校2年生程度が妥当であると考えられる。 ・文章読解力に難があり、平易な文章であっても問題文や設問の意味が理解できず、誤答することがままある。 今年度は、3班に所属となったが、身近な言葉や話題から知識を広げることで学習意欲の向上を図り社会生活の中で生かせる「国語力」を身につけさせたいと考える。	
6 研究実践の内容① (1) タイムリーな教材 ・産業現場等における現場実習の前には、電話のかけ方や礼状の書き方、敬語について学習した。また、履歴書についてふれ、『志望の動機』を記入する際、きっかけと結果を文章としてつなぐ接続語について考える時間を設ける等、実生活につながるようにした。	
(2) 手立ての選択 ・身近な文章 (自分たちが作成した作文や実習の礼状、新聞記事など) に含まれる語句から対義語を考えたり、漢字の構成を調べたりする。手立てとして、漢字カードを用いたり、担当教師からヒントをもらったりする。自分にあった手立てを自分で選択し、できるだけ自分で考えて答えを導き出すようにする。 →補助教材は使用せず、担当教員からヒントをもらい解答を考える。	
○ “送る” の対義語 「卒業生を送る。入学生を・・・」	
○ “増える” の対義語 「人が引越ししてきて、町の人口が増える。 人が引越しして行って、町の人口が・・・」	



7 成果と課題

- 身近な話題を設定することが多かったことで、意欲的に取り組み、理解しやすさがあつた。
- ×敬語の指導の場面で、参考として謙譲語についてまとめたプリントを配布したところ、迷わせることになってしまった。情報を精選する必要があつた。

8. その他の取り組み

(A) 助詞の小テスト

【対象クラス・高等部1学年2班】

・助詞【主に格助詞・副助詞・接続助詞】の「は・が・に・を・と・へ」等使い分けを学ぶにあたり、授業前に2枚一組（1枚8問）の小テストを行う。終了時間を10分に設定して取り組ませる。その中で必ず見直しを実施させ、習慣化させていく。試験終了後は、生徒に発表を促し（＝挙手制）、答えを板書させる。全体での解答時には、必ず本人に全文を音読させることで、文全体を客観的に把握させる。複数の正答が導き出される場合もあり、その際もできる限り生徒が自主的に発言できる雰囲気を作り出し、正答を引き出していく。解答時に生徒が生じた疑問は、必ず授業内で解決できるよう配慮する。この試みにより、生徒の積極性を育むだけでなく、正しい文を常に意識し、日常において活用していく姿勢を養う。

【成果と結果】

・9月から実施。小テスト導入当初は、今一つペースのつかめない生徒も見受けられたが、皆程無く適応できたように感じられる。正答率に関しては、導入当初と比較しても上昇は明白であり、正当であれ誤答であれ、自身の考えを積極的に発言する生徒が増えたと感じられる。終了後には必ず点数の確認をするようにしたところ、以前は間違えたことに関してそれほど悔しがる様子を見せなかった生徒も、非常に悔しがるそぶりを見せるようになる等、学びの上で不可欠な向上心が育まれていることが見て取れる。また板書の回数が多くなったことで、「できるだけきれいな文字で書きました。」等、綺麗な文字を書くことを意識するようになるなど、客観的な視点も意識できるようになってきた。今後も継続し、国語力の向上を図っていきたい。

(B) 説明文を読もう 「色さいとくらし」（出典：『新編 新しい国語 四 上巻』 東京書籍）

【対象クラス・高等部3学年2班】

・説明文を読んで、自分たちの身の回りにある様々な色彩や、それらが持つ意味、与える印象について考えたり、想像したりし、感じたことを発表し合う。生徒にとって、身近に感じられることを題材にした説明文であるため、自分の知識や経験と結びつけやすい。想像したり、思考したりし、自分の考えを伝えようとする姿勢、相手の思いや考えを理解しようとする姿勢を養う。

【成果と結果】

・ピクトグラムを提示し、色の違いによってどんなふうに印象が変わるかを、全員で話し合ったところ、活発に意見交換する様子が見られた。また、教師の発問に対し、単語のみで伝えようとする生徒に対しては、「なに が・ どう だから・ こんなふう に思う」というカードを示し、自分の考えをわかりやすく相手に伝える方法をアドバイスしたことで、自分の意見を自信を持って伝えることができた。今後も、言語活動の充実を目標として、授業作りに努めたい。